

Japan
Handball
Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 県協会

- 全国大会
- フロクタ大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 **合志-男14**

年月日 **2019年8月4日(日)**
大会名 **令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会**

公式記録用紙

A	県立小林秀峰高等学校						県立桑名工業高等学校						B	
都道府県	熊本県		市町村		合志市		会場				回戦			
	合志市総合センターヴィーブル		1回戦											
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7m20-27分	A	B
	18	8	33	18										
7m得点/総数	A		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数			
	1/1		1	2	3	1	2前半	3	1/3					
			2935			0453	2250	1629						

No.	県立小林秀峰高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	県立桑名工業高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	榑松 美勇士							2	山出 紅葉	1					
2 C	大川 陸	11						3 C	勢力 大地	2	1				
3	北林 滉生	2						4	安本 寛叶	1					
4	本田 琉画良	5	1					5	佐藤 壮汰						
5	丸尾 善太	1						6	福本 絃葵						
6	瀬戸口 真斗	2	1					7	小林 大斗	2					
7	真方 駿			1				8	田中 瑛斗						
8	河野 琉星	2		1				9	深谷 繼太						
9	築瀬 航							11	加藤 貴史	3					
10	北ノ園 海人	2						12	山田 風哉						
11	野間 和成	5						13	横田 滉希	6					
13	前田 俊貴							14	松岡 駿	3					
14	鈴木 稜也	3						15	澤田 拓海						
16	河野 陽向							17	鷲野 史典						
役員A	川野 敦史							役員A	長谷川 将規						
役員B	宮島 隆三							役員B	砂川 匠						
役員C	蘭田 卓磨							役員C	大角 拓矢						
役員D								役員D							

A	川野 敦史	チーム役員A署名	長谷川 将規	B
---	-------	----------	--------	---

レフェリー	太田 直希	西山 周良	入田 隼希	西山 周良
TD	平井 徳尚	小川 直宏	平井 徳尚	小川 直宏
MO				

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール No.32

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 4日 日曜
会場	合志市総合センターヴィーブル
種別	高校男子
回戦	1回戦

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名	
	33	県立小林 秀峰高等学 校	18 — 8	18	15 — 10	県立桑名 工業高等学 校
後半						
第1延長						
—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	小林秀峰は、ゲームの立ち上がりからディフェンスのフットワークが速く、GKとのコンビネーションもかみ合い、速攻で立て続けに4点連取し5分で4対0とリードを奪う。桑名工業はたまらずタイムアウトを取ると、攻めあぐねていたセットプレーでポストが巧くスペースに動いて獲得した7mTを決めると、ディフェンスでは相手バックプレーヤー2人にマンマークをつけ攻撃のリズムを崩しにかかる。このディフェンスでミスを誘い速攻につなげると、2対4と2点差となる。桑名工業の変則ディフェンスに対し小林秀峰もバックプレーヤー2人を除いた4対4の攻防に時間が経つにつれ、大川のカットインシュート等が決まりはじめ徐々にリズムを取り戻す。その後一気に加速し、前半を18対8の大量リードで折り返す。
	後半	後半に入り桑名工業は素早いフットワークの6-0ディフェンスから勢いに乗るかと思われたが、小林秀峰は落ち着いたパス回しからディフェンスの動きを的確に判断し、正確なパスからノーマークのプレーヤーを作りセットオフenseで着実に加点し突き放す。桑名工業は得点された後もスピードを生かしたり・スタートを試みるたり、ディフェンスを3-3に切り換えたりするなどして、持ち味を十分に発揮し必死に追いますが、しかし小林秀峰は中盤以降退場者を出したが、5-6のセットオフenseでも失速することなく加点し、33対18で勝利した。点差はついたが、終盤でもスピード感があるプレーが展開され、見えのあるゲームであった。

記入者	四宮 一郎
-----	-------

ハンドボール No.38